

第12回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日 時 令和元年7月11日(木) 10時15分～
- 2 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員10名のうち9名出席
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議経過 (1) 開会 10:15
(2) 挨拶
傍聴確認 (事務局より傍聴者2名と報告)
議事録署名確認 (名簿順につき橋口委員に依頼→了承)
資料確認 (配布漏れなし)
(3) 報告
①事業概要について
②ルーマニア陸上競技選手団
トレーニングキャンプ報告について
③東京2020オリンピック聖火リレールート決定について
(4) 議題
①東京2020オリンピック聖火ランナー概要及び
松戸市推薦ランナー要望案について
(5) 閉会 11:45

6 議事概要

○長江会長

皆さん、おはようございます。

本日の会議につきましては、式次第に従いまして円滑な運営、委員の皆様方のご協力をいただきたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、こちらの会議次第に従ひまして、次第の1番目の事業概要と、それからルーマニア陸上競技選手団トレーニングキャンプの報告、説明を事務局より、よろしくお願ひいたします。

(事務局から事業概要の報告)

○長江会長

ありがとうございます。事務局からのご説明・報告ありがとうございました。

それでは、委員の皆様方からご意見とかご質問等をいただきたいと思ひます。どなたか発言を。一番手を引き受けてくださる方、いらっしゃいますか。

松戸市観光協会の須田さん、ルーマニアとの関係ではいかがでしょうか。

○須田委員

ルーマニアとかドミニカなんかは、うちが委託をして梨の事業で、今年は、先ほど市長のほうからも実がなったという話をさせていただいたと思ひますけども、先週、ドミニカ共和国にうちの職員が2名、育成者と、それから通訳という形で行ってしまひて、梨の実は5個ぐらひはなっていたそうです。これが大きくなることを期待していくのがドミニカなのかなということがあります。

それから、先ほど伊藤理事長とも話したんですが、実は文化振興財団と国際交流協会、松戸市観光協会で3月15日に国際的なイベントをやるかという計画をしまひて、そのタイミングの中で、先のスケジュールなので、まだ細かいことは全然決まっていないうんですけども、オリンピックのプロモーションも含めたものが何か一緒にできればいいかなと思ひています。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、伊藤委員のほうからもよろしくお願ひします。

○伊藤委員

今のルーマニアの事前キャンプとの関連でちょっとお聞きしたいんですけども、かなり本格的な事前キャンプということで今回初めてで、準備する推進課のほうもご苦労されたというのがよくわかると思ひんですが、今回、1つの前例ができたということで、それに沿って、これからいろんなものが改善されていくのかなと思ひんです。経費負担の面について、いろんな取り決め、あと国際的な約束とか、そういうものもあったと思ひんですけど、その辺については大体予定どおり行われたということで、それはこれからも踏襲していけそうな感じなのか。あるいは、予想つかないような意外なことが起こった、そういうようなことがあったのかということ。

それからオリンピックを目指す人たちにとってみれば、まだ1年前なので、もちろん、いろんな国際大会ということで本気度はあったんだと思ひんですけども、ただ、これからオリンピック直前になって選手が来たときに、我々が希望するいろんな市民との交流ということについて、どの程度彼らが自分たちのスケジュールや、メンタル面も

含めて乱されたくないという思いもあると思いますので、その辺のところの兼ね合いを今後どうやってつけていくのか。それについて、今回の経験から何か得られたようなことがあればお聞きしたいんです。

○長江会長

いかがでしょうか、事務局のほうから。

○事務局

当初、仲介いただいている団体がございますので、そことやりとりして、先方からの意見などで、こちらのスケジュールをお出ししてやりとりはしておりました。一旦スケジュールをオーケーいただいて、実際、また来たときにスケジュールの再確認ということでミーティングを開いたんですけども、そのときかなりスケジュールが変わっておりまして、当初聞いたときに、例えば午前、午後の1日に2回、練習を設定したりしていたんですが、あちらでは事前キャンプなんで、調整だから1日1回にしたいといったところもございましたし、そういったところはできるだけ選手のほうに寄り添って、こちらのスケジュールは変えるようにしてございます。ただ、ご協力できる範囲で市民との交流をいただきたいというところで、オーケーいただいたところで交流を実施していると。実際、ほかに予定もあったんですが、ここはやめてくれというところはキャンセルしたりとか、そういったところもございました。

あと、公開練習は、あちらの要求とこちらの要求といろいろ交渉しながら今回実現したといったところでございます。

費用のほうでございますが、こちらとしては上限を決めて、あちらに通知をしております、その中でやりくりしていただくような形で実施しました。今回は、それで7名で10日間となりました。渡航費のほうは、あちらの負担で、それ以外の宿泊費と食費と移動費も協定書の中で定めて、こちらの負担でさせていただいたところでございます。それ以外の経費はルーマニア持ちといったところでございます。

○事務局

ちょっと補足なんですけど、昨年、松戸市のホストタウン推進に係る費用負担に関する考え方という内規を課のほうで作成しております。これは事前キャンプ、事前視察、交流事業、七草マラソン、それぞれのケースごとに考え方を取りまとめたものでありまして、基本的には、それに基づいて交渉しております。あとは予算の範囲内で交渉して、今回実現したというものでございます。

○伊藤委員

恐らくこれから1年の間にいろんなタイミングで事前キャンプが出てくると思いますし、松戸の場合は1種目じゃなくて複数の種目があるので、その形態とか何かも変わるとは思うんですけども、やっぱり選手にそんなに負担がなくて市民も関心が寄せられるというのは、選手たちのいろんな練習風景を市民が見られることだと思います。卓球とか、見るのもおもしろみがあるので、市民にそれがいろんな形で見られるというような状況はぜひとも確保していただければなと思います。

あと時間をとって、どこかを訪問して交流するというのは選手の都合で、できないよ

うなものもあると思うので、できるだけ見られる機会を多く設けていただければと思います。

あと、ほかのところの団体がどんなふうに行っているかというのもちよっと探ってみられるのもいいのかなと。あるいは、うちのやつを紹介するというのもいいかもしれませんし、日本全国やるわけにいかないの、どこか特定のところ、これまでも交流のあるようなところ、似たようなことをやっているようなところといろいろな情報交換していかれるのもいいのかなとは思っています。

それから、観光協会で3月の件が出ましたけども、それはちよっとご検討いただきたいと思うんです。あとは国際交流協会のほうで、10月19日、今年は市民会館で国際文化祭を行おうと思っておりますけども、そんなに市民が大勢来るあれではないんですが、合計1,000人近くの方が毎年来ていただいていますので、そこでどういうことができるかわかりませんが、ブースとか、説明するような何かを配ったりということではできるのかなと思います。そちらもご検討いただければ、国際交流協会のほうもいろいろ協力してやれると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

以上です。

○長江会長

よろしいでしょうか。

それでは、岡本委員のほうからスポーツ全般でいかがでしょうか。

○岡本委員

特別、話を聞いていて今おっしゃるとおりで、やっぱり選手たちが事前キャンプをやって、その成果でいい成績が出たんだという感じを持ってもらえればいいなという感じを持っています。あと、いろんな事前キャンプで市民が見ることができるということがあれば行ってみたいなと感じます。

○長江会長

ありがとうございます。

商工会議所の薄葉委員のほうからございますか。

○薄葉委員

やっぱりお話を聞いて、交流した人が喜んでもらえるのが一番かなと。レガシーというと、やっぱり松戸の場合は交流した人の中の記憶に残るかどうなのか。そのことによって、性格が変わるまで大袈裟にはならないでしょうけれども、国際化という時代に合っているのではないかなと。あと今の説明を聞いていて、小学生は夢の教室が一番好きな授業だなと。

また、商工会議所は対象が経済界なんですけど、先日、千葉県の商工会議所は21ありまして、その総会がありまして、うちの会頭が会員なんですけども、千葉県のオリパラ関係の方が説明に来られていた。いろいろ全般的な説明をしたんですけども、最終的には交通の問題なんです。来年の話ですけども、湾岸の習志野とか千葉、船橋あたりで車が動かなくなるのではということで、事業者は計画的にお願いしたいということが1つの話。

もう1つは経済の話なんですけれども、どこの会議所も会議所全体として、1つの地域に向かって、こうだよと、これだけ人が増えるよという話はなかなかできない。ただ、ある業種のあるお店が、こういうことで自分たちの商売になるぞと、そういう人は確かにいると思います。そういう人が手を挙げて、支援してくれということになれば会議所もお手伝いできるかなと。

それからもう1つとして、松戸でも事前キャンプを行うときに、近くの商店街では何かできるんじゃないかなと。千葉の会議所で冊子をつくったんですが、PRに努めなかったら来ないだろうということが前提の理屈なんですけれども、何をPRするのか、誰に対してPRするのかということになると、なかなか抽象的な話になってしまい、具体的なのがなかなか。

ただ、今言ったように、ある業種のあの業態の企業がプラスになるんじゃないかということであれば、長い目では大いにいいことではないかと思います。

さっき副市長が来たときに、松戸はオリンピックに向かってやっていますからと。

ほかの市のことを知らないと言ってはいけないんですけど、松戸市は大いに頑張っていると思います。

○事務局

ありがとうございます。

○長江会長

それでは、橋口委員、何かご意見とかございますか。

○橋口委員

今、話を伺いまして、まず質問というよりは現状で、僕は今の歯学部の学生たちに、オリンピックのチケットを買った学生は何人いるのと手を挙げさせたら、120名のうち10人ぐらいです。当たったのが3~4名。でも、当たった当たらないというよりは、むしろ10名ぐらいだというのが現実だと思っていただいてもいいのかなと思います。我々はスポーツ関係にいますので、オリンピックの機運とかパラリンピックみたいなのがありますけども、現実はそのような問題になっていくと、まだまだ普及が足りない。

そもそも松戸に聖火が来る。聖火は何で来るんだろうということすらわからないような状況だと思います。それがもしかしたら一般市民の感想なのかもしれない。意外とメディアが言っているほど、そんなに易しいものじゃないというところを踏まえていくと、この資料を見させていただいても、大学の中でももっと連携してもいいのかなとちょっと今思います。

では、うちの学生たちが何ができるかということに対して問題も含めて、ここもまだまだ余地があるのかなと。チラシを配っても来ないですよ。ポスターを貼っても来ないです。どうやったら情報を発信できるんだろうということも、僕らも見てきて、ドミニカ、ルーマニアが来るということすらわかってない。そもそも日本のチケットを買わないということ。それはスポーツ系の大学じゃないので、だからこそかもしれないですが、そこも何かあるのかなと思いました。

あと、一般市民や松戸市に関係する方に見てもらおうことと、もう1つは、市長もおっし

やっていましたけれども、松戸市の選手の強化ということで、ここは、これを機運にして松戸市の選手が集まる、あと雇用もあるというようなところも、特にパラの選手は雇用があると、競技をやる上で安定して職業があって競技ができる。そういったところに向けていってあげないと松戸へは来ない。これだけ体育施設がきれいになって合宿地を誘致したということになれば、そういったところでトレーニングができる、キャンプができる、施設を使えるというような、そういった意味での今後のレガシーというところなんですけども。

○長江会長

西機委員いかがですか。

○西機委員

ちょっと気になるのは、年間計画表をいただきましたけど、先ほどの学生の機運醸成とか、いろんなことを考えると、これからより忙しくなって、ふってくる事業に対して対応するというのを繰り返していくと、結局、知っている人とか、既に機運が高まっている人とか、関係ある人だけに関わるというふうにどうしてもなりがちだと思うんですね。

私なんかも、学生なんかを関わらせたりしようと思うと、やっぱり半年前とか1年前ぐらいから少しウォーミングアップしながらとか、1回触れさせて、おもしろいんだという仕掛けをしてからじゃないと、なかなか一気に動員をかけたというものは難しいのと、あとは学生に限らず、市民の方もそうでしょうけれども、ちょっと受け身な部分が多いと思うので、自走する人たち、自発的に動く人たちにもう少し移譲というか、ある程度役割を託して機運醸成とかをもっとやっていっていただくということの情報共有を、あるいは、その人たちと接する機会を学生なんかには早い段階に設けていただきたいなど。来年のスケジュールが逆に空っぽだったら空っぽでいいんですけど、マイルストーンだけをきっちり。あるいは、ここにもお祭りのことが書いていたりしますけど、うちのキャンパスだったら新松戸なので、ちょうど今週末、新松戸まつりがありますけど、毎回、新松戸まつりあるなどとなって、そういえばとなってしまいうので、もうちょっと前広にスケジュールの共有と、できるかできないよりも、いつ、そういうチャンスが来てもいいようにする準備を少ししておかないと、ふってくるものにだけ対応するということで、こちらがやりたいことが結局できないままとなるのが先ほどの情報共有の中で気になる。

○長江会長

広げていく、それから支えていく側の方々と学生が接触できるように。

太下委員、いかがでしょうか。

○太下委員

ご案内のとおり、オリンピックといいますと、一般的にはスポーツの祭典というイメージが非常に強いですが、実はオリンピックはスポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあるということで、文化プログラムというものが行われるという形になります。

残念ながら、まだ日本全体で盛り上がってはいないんですけども、一番直近の

動きとしましては、政府が、オリンピックという言葉はご案内のとおり、いろいろ権利が絡んで使いづらいところがあるんですけど、オリンピックという言葉ではなくて、日本博という名称で全国で文化プログラムをやることの方針を打ち出しておりまして、出国税を財源に今年度38億円ぐらいの予算をかけて、日本博というカテゴリーの中で文化プログラムをやっていくという形になっております。

ですので、徐々に盛り上がりを見せていくのかなと思っていますけども、ぜひ松戸でも、今日も森のホールのご案内とかありましたけれども、いい施設もお持ちですし、あと行政が支援する形で駅前にPARADISE AIRみたいな、国際的なアーティスト・イン・レジデンスの施設もありますし、また、常磐線沿線の自治体で文化で交流していこうというJOBANアートのラインのような動きもずっと続けてこられていますので、ぜひオリンピックの中でこういう文化プログラムをより一層推進していただくと、スポーツ面だけではなく、また別の形で盛り上がっていくということにも貢献できるんじゃないか、こういうふうに考えております。

○長江会長

ありがとうございます。

尾崎委員、よろしく願います。

○尾崎委員

我々は企業そのものがスポーツのど真ん中におりますので、先ほどから出ているお話からしますと、我々の業界そのものがこの機運に乗っていかうということ。

もう1つは、オリンピック以降に一種のスポーツ不況みたいなことにならないように、どういうふうにレガシーをつないで、できれば2025年の大阪万博までには世界大会を各種目で誘致して、ぜひスポーツの機運を引っ張りたいと、こんなような動きがあります。松戸市ということで、例えばいろんな取り組みをしていることに対して市民の関心度みたいなものがどういう形で図れるのかと。それは、俗に言うSNSの発信のいいね！の活動を見てみるとか、そういうようなことをしながら、スポーツのど真ん中にいる方々以外の関心度をどういう形で図るのかということと、図るためには何らかの政策があると。情報発信だったり、あるいはイベントであったりと、こういうような仕組みをうまく入れれば、やっていっている対策の強弱がこれからもっとポイントになってくると思いますので、そういう視点でスポーツメーカーとしても、いろんな行政が今合宿を具体的に進めているということ、急激にここ数カ月間に進んでおります。私が聞いている範囲において、明日からはロシアの体操チームが新潟県のほうに来ると。その期間は市民への接触は基本的にはやらないとか、そういうような情報も入ってきておりますので、必要なこととお役に立てれば、ぜひそういうようなところも考慮させていただければと思います。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

皆様からいただいた意見を市のほうでも現実問題として、いかに裾野を広く市民の

方々に認知していただくかということに対して実行力のある形でお願ひします。

また、市の担当課の方々は結構フットワークよく、私どもの聖徳大学にも来ていただいたりして、学園祭とか、そういうときに五輪音頭とか、そういうものをしっかりと学生が自主的に動いてくれるとか、いろんな形でPRも買って出ているようですので、まず知り合うことからお願ひいたします。

○事務局

先ほど国際交流協会の伊藤理事長からのご質問で、費用負担の件で補足させていただきます。さきほど松戸市の負担で、宿泊費と食料費、あと国内の移動費で、それ以外の渡航費はルーマニアというところでもございました。選手団が帰国したあと松戸市へ招待があつて、松戸市の選手がルーマニアに1名行つております。その時は1名ですが、宿泊費、渡航費とか、全てあちらに持たせていただいておりますので、補足させていただきます。

○長江会長

ありがとうございます。

続きまして3番目の聖火リレールートの決定につきまして、事務局よりご説明いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(事務局から聖火リレー・聖火ランナーに関する報告)

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方のほうからご質問、あるいは、こういう方にぜひ聖火ランナーとして走ってもらいたいなというご希望も含めて、ご提案がございましたらよろしくお願ひします。いかがでしょうか。

要望案なので、要望案として皆様方のご意見をいただければと思ひます。

○事務局

広くご意見をいただければと思ひます。

○長江会長

どうでしょうか。観光協会の須田委員いかがでしょうか。

○須田委員

多分、聖火のイベントは大変かなというので、何かしらのお手伝いはしていくような形になるんだろうとは思つております。

あと一方で、募集の内容については、これは県なり国として公募しているのので、何かあれば関係団体の方たちが、早目に言えば、そういうエントリーに含めてくれるということでもいいんですよね。なので、これでやっていったほうがいいんじゃないですかという立場で。

○長江会長

ありがとうございます。伊藤委員、いかがでしょうか。

○伊藤委員

特にないですけども、ただ聖火リレーが松戸に来るということで、市長も含めて悲願だったので実現するということがよかったです。関係者の皆様のご努力に感謝したいと思います。

松戸市内についても1日だけのイベントなので、あっという間に終わるんだろうと思うんですけども、恐らく事前の準備というのは相当大変だろうと思います。聖火ランナーの選抜も含めて、やっぱり皆さん納得のいくような形で、そのやり方も含めて、今はそんなに盛り上がりたないかもしれませんが、テレビも放映されるでしょうし、せっかくのイベントですので、恐らく直前になれば相当市の中でも盛り上がるんだろうと思いますので、それに向けて推進課のほうは大変だろうと思いますが、ぜひ成功させていただきたいなと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。

西機委員いかがでしょうか。

○西機委員

恐らく市民がチケットを買って見に行くか、ボランティアに関わる以外、ある意味、直接的というか、非常に近く間接的にかかわれる唯一のイベントになると思うんです。7月4日に向けて、カウントダウンという開会式があるから大袈裟だと思うんですけど、もう少し聖火リレーをピークだったり、あるいは、それをきっかけにして、その後のレガシーづくりにしていくような事前の大学生の巻き込みもそうですけれども、先ほどの文化みたいところだと思いますし、あるいは高齢者とか、次世代とか、多分、これを1つのシンボルにして、もうちょっとほかの、恐らく先ほどからおっしゃっているように、この日を動かすこと自体にどうしてもたくさん業務やら、いろんなことがあって大変だとは思いますが、だからこそ、手前にこれをどう活用するかということをやっと積み上げていかないと、それを考えると、ちょうど1年前の今から、それを少しずつでもやるチームをやっとずつつくっていったり、ボランティアをつくっていったりということが非常に重要だろうなと思いました。その手前の作業があればあるほど、関わりたいというところも結局強ければ強いほど、その後の持続にもつながるんだろうなと思います。

○長江会長

橋口委員、いかがでしょうか。

市内といっても広いので、聖火も実際どのルートで走るかによって、地域の人たちも、中央公園じゃなくても一目でも見られるというようなチャンスも広がると思うんです。大学も結構点在している地域がありますが。

○橋口委員

全く連携がないので、ここは本当に知るよしがありません。我々の率直な印象だと思います。今、歯学部は全学年で800人いますが、120名が僕の授業を受けて、今、4年生以降は受けていませんから。本当に準備すらわからない。ボランティアの育成をす

るといふときに、誰がやっているのか、一部の中学生、一部の大学、一部の高校生と
いふようなイメージにしかならないので、ちょっと厳しいかもしれないです。だからこそ、
恐らく募集しても、見に行ける人といふのは限られた人のネットワークで、熱意のある方
で、でも、その方はいますから、そうなるほしくないなといふのが印象ですね。

○長江会長

裾野がどれだけ広くしていただけるかといふことなので、よろしくお願ひします。

岡本委員いかがでしょうか。

○岡本委員

朝、散歩しているんですけども、いつも近所をジョギングしている高齢者が聖火ラン
ナーになりたいんだといふことで、応募したいんですけど、どうなんですかね、なんて
いふことをちょっと声かけてくれた人もいます。要望案の中には、そういう人といふ
のは、県のほうに対する応募といふのはできるかもしれませんが、この中からすると
ちょっと外れていますよね。ただ、今、そういう人が市内には結構いらっしゃると思ふ
んです。また、「本市のPR及び地域活性化に影響を与えている方を対象とする」、これ
はちょっと漠然としてわかりにくいんですけど、私自身は、本当になれたらいいなといふ
感じの人は結構多いと思ふんです。ただ、手を挙げてするかどうかといふのは別問題
ですけども、その辺をこちらもちゃんと認識して進めるといふことが必要かなといふ感じ
がします。

○長江会長

公募といふか、松戸市卒の人数だと2名とか3名なんですよね。

○事務局

それもまだ具体的に示されているわけではなく、あくまでも都道府県単位で実行委
員会がなされているので、松戸市として、どなたがとかといふことは言えないけれど、
市町村のご意見は尊重したいといふことで言われているものでございまして、非常に
抽象的になっているなといふのは、今ご意見を伺っていても思っておりますけれど、
本当にやる気があったりとか、やる気をどこまでどうやって図るのかといふところが難し
いので、抽象的ではあるけれど、条件を提示するとしたら、こういうことかなといふこと
で一応要望案をつくらせていただいているところでございます。

○長江会長

ありがとうございます。

委員の皆様方から、今、市のほうで提示されたような聖火ランナーの条件以外に、
こういうこともあるんじゃないかとか、そういうような選考の1つのあり方といふか、そうい
うので何かご意見ありますか。

尾崎委員のほうから。

○尾崎委員

恐らくオリンピックのほうの聖火リレーは相当いろんなところで縛りがきついで、そ
れにのっかってやっっていくのが相当あるなといふことを感じていますので、その中でで
きることを目いっぱいしていくことだろうと。

一方で、パラリンピックのほうも多分聖火をつなぐはずなんですよ。だから、パラリンピック側のことも、直接的に事前合宿云々はないにしても、恐らく千葉では会場としてパラリンピックの開催地になるはずなので、聖火リレーのコースになるかどうかはともかくとして、もしそういうところの縛りがなければ、逆に言うと、パラアスリートみたいな人たちにも、このオリンピックの聖火ランナーとして松戸に関わってもらおうとかいうのもちょっと考えてもいいんじゃないのかなと。多分、パラリンピックはコースが大分少ないと聞いているんですよ。であれば、こちらのオリンピックのほうに、そういうハンディキャップを持ちながら頑張っておられるという方なんかも言ってみてもいいんじゃないのかなというのは感じたところなんです。

○長江会長

ダイバーシティというか、多様性を認めるというところの目標設定があります。

○尾崎委員

先ほどから出ていますように、アスリートでスポーツ大好き人間ばかりの集まりになると、逆に言うと、少しスポーツとの距離がある方からすれば、ちょっと白けモードになるというのでも聞いたりするので、それからすると少し見方を広げていただいて、例えば文化的貢献のあるとか、そういうのも1つの交流の場になる選び方もあるんじゃないかなというのにはちょっと感じました。

○長江会長

ありがとうございました。

それでは、聖火ランナーのほうですね。皆様方からのご意見を含めた形で、できるだけ積極的に市として関わっていただくとともに、オリンピックだけではなく、パラリンピックの文化的な部分を含めて進めていくということとか、あと1年前なものですから、できる限り1年間、しっかりと広報、あるいはボランティアを含めて、当日大変な混雑になるかもしれませんし、全く関心がなければ閑散としてしまうので、そこのところを積極的に推進していくという方向でよろしいでしょうか。

○西機委員

1点よろしいですか。

○長江会長

お願いします。

○西機委員

8月31日までに推薦をして年内に決まっていくというような感じになっていると思いますが、できれば聖火ランナーになるような人を、来年の年明けてからの1月以降、この活動とかも含めてアンバサダーというか、そういう役割を担ってもらえるような方を推薦して、その人を軸にもう少し機運醸成とかのアピールにも常に出てきていただいて、求心力があるというか、そういう活用の仕方を前提に推進されるというのも、選ばれるとは限らないとは思いますが、そういうことも念頭に置いて推進するというのも1つなのかなと。ですから、先ほどのパラリンピックの人であれば、そういう活動をこの先アンバサダーにさせていただく方、あるいは文化的な活動のアンバサダーになってい

ただけるような方ということで、1人の機会をもう少しみんなでも活用できるような推進の仕方が非常にいいんじゃないかなと思います。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

大変よいアドバイスをいただきまして、そういうことができるようにしていきたいと思っております。ただし、聖火リレー、聖火ランナーという、すごく制約が多いのと、まだ詳細が、実際、なかなか私どもまでおりにきてないというのがありまして、聖火ランナーをその後どういう形で公表できるかというところもまだわからないところがございますので、できれば今、西機先生がおっしゃったような、アンバサダーになっていただけるような方にぜひ選んでいただきたいと思います。私どもも思っております。

○長江会長

それでは、そういう方向も含めて推進していく方向でよろしいでしょうか。

○事務局

はい。そういうことも含めて要望していきたいと。

○尾崎委員

私も一点いいですか。

○長江会長

はい。よろしくをお願いします。

○尾崎委員

駅の周辺で、聖火が最後来られると。そういうのがある程度デザイン的にこういうふうになるだろうということで多分整理していくと思うんですけど、今、バーチャルの例えばVRとか、ああいうような簡素なものをつくって、市民の方々が、このところでこういうように聖火が引き継がれていくということを発信できるような気がするんですよね。今、それほどコストもかからないので、でないと、紙面で幾ら話をしても、どういうふうにしてここで聖火が渡されていくのかというのは、多分、市民の方々がほとんどイメージできないまま、混雑している人の中を聖火を持っている人たちが歩いているというレベルぐらいしか浮かばないと思うんですけど、その辺も駅周辺の整備の状況も踏まえて、きれいなCG画像みたいなものを使いながら発信できると、より機運が上がってくるんじゃないかなというのはちょっと感じます。整備計画のことだとは思いますが、なかなか紙面でわかりにくいんですよね。

○長江会長

ありがとうございます。

特に松戸の場合はJRの駅と、それから緑いっぱい中央公園の広場がうまいこと、そのまま保存されているので、そういう点ではセレモニーもそうですし、人の集まり方も収容できる人数も含めて一番いい条件になっているかと思うので、駅の周辺から坂道を上って旧工兵学校跡ですかね。文教地区がうまく存在していますし、それから6号から来ても、そこに人が集まるような構図になっていて、実際に終わった時間か

らも駅からお帰りになれるという動線がしっかりとれるので、あとは混雑に対応していくのかということですね。今、CGでとか、あるいはイメージでというのはすばらしいことだと思いますので、またご検討いただけたらと思います。よろしくお願いします。舞台はそろっているということですね。

それでは、最後に何かご質問とかご意見とか、ございますでしょうか。

事務局のほうから何かございますか。

○事務局

1つ、大学の皆様、特に若い世代の方々にこういった話を広めていく際に、流通経済大学さんですとか日大松戸歯学部さん、聖徳大学さん、千葉大の園芸学部さん、市内にある4つの大学の学生の皆様に情報が行き渡るようにしていきたいと思っております。実は先日、聖徳大学の学生部のボランティアをやっている担当の先生と接触できることがございまして、またそういった機会もいただければ、いろんな形でこちらも出向いたりとかしていきたいと思って、ぜひご協力をいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あと文化のほうなんですけれども、先ほどセレブレーションで松戸市の歴史、文化とこのを発信していかななくてはいけないということで、誘致活動をしている際も松戸駅周辺の相模台が中世からの戦いの跡があったりとか、中山競馬場の前、船橋に行く前の競馬場があったとか、千葉大の工学部があったとか、中央公園を私どもがピンポイントで推薦したわけではないですが、いろいろ聞かれたときには、そういったことをお答えしておりましたので、やはり松戸の歴史・文化、いろいろなものが評価されて最終的に松戸を選んでいただけたと思っております。そういった松戸の価値についても市民の皆様にお伝えできたらいいかなと思っておりますので、ぜひまた、ご支援いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

その他でイベントの告知をさせていただきたいと思っております。

○長江会長

では、そちらをお願いします。

○事務局

資料は最後のページにございますが、東京2020大会1年前記念フェスティバルin松戸についてご説明をいたします。

来年、2020年7月24日にオリンピックが開幕しますので、その1年前として、松戸市でも何か盛り上げるイベントをやりたいなというところから、このイベントを開催することとなりました。会場は松戸運動公園の体育館で行いまして、会場内に5つのエリアを設けて、チラシにご案内している、大きく分けて踊る・競技体験・学ぶ・メッセージフラッグコーナーを設けて当日はイベントを行います。

踊るに関しましては、千葉県が派遣事業として行っている「ゆめみるチーバくんダン

スキヤラバン隊」という方々のご協力をいただきまして、当日は「ゆめみるチーバくん」のダンス教室を行います。松戸市で行いますので、松戸のゆるキャラ、松戸さんも呼んで会場を盛り上げたいと思っております。

競技体験につきましては、松戸市内でラグビースクールのコーチをしてくださっております西山淳哉さんにご協力いただいてラグビー体験教室を行います。また、千葉県で開催競技でございますフェンシング体験といたしましては、県立松戸高校のフェンシング部の部員の皆様にご協力をいただきまして実施いたします。また、企業の方にもご協力いただけることになりまして、株式会社明治様からは食育講座、コカ・コーラ社からはオリンピックや聖火リレーのパネル展示ですとか、これまでの聖火リレーをまとめたVTR、今後、この先の聖火リレーのイメージにつながるようなVTRの放映を行ってくださるということで、市民の方々の機運を高める内容となっているのではないかなと思っております。

加えまして、委員の皆様、味わっていただいたかと思うんですけれども、ルーマニアの国民的飲料でございますソカタという飲み物をファンタで再現いたしまして、こちらは先月、6月上旬から自動販売機限定で販売されているものなんですけれども、このイベントのために試飲ということでご用意いただけることになりました。ホストタウン交流ということでも、相手国の味を知るといういい体験ができるのではないかなと思っております。関係する方々や委員の皆様、知人の皆様にご案内いただけましたら幸いです。

以上でございます。

○長江会長

ありがとうございました。それから、定期演奏会をよろしく願います。

○事務局

こちらのルーマニアの国旗の載ったチラシでございますが、松戸市じゃなくて、市民団体の松戸シティフィルハーモニー管弦楽団が開催するものでございます。ルーマニア特集ということで開催いただくことになりました。指揮者は尾崎晋也さんという方なんですけど、今現在、ルーマニアのほうでご活躍中の方だそうございまして、ジョルジュ・エネスクという作曲家でございますが、こちらもルーマニアを代表する作曲家でございます。私どもが11月にルーマニアに渡航に行ったときは国立ジョルジュ・エネスク博物館といったところで、国が博物館を開いているような、ルーマニアを代表するような作曲家でございます。

こういったところで市民団体の方々がルーマニアを特集して演奏会をしていただきますが、松戸市も全面的に後援をいたしまして活動をバックアップ、周知活動も今しております。また、当日はルーマニアワインの試飲だとか、ルーマニアの文化の各種展示なども、ホストタウンの啓発といったところでございますが、私どものほうでさせていただきます予定でございます。9月15日、日曜日、森のホール21で開催いたします。こちらは公認プログラムに認定いただいております。

以上、報告させていただきます。

○長江会長

ありがとうございます。これはホームページとかウェブで市民に情報は。

○事務局

はい。ポスターがあるんですけども、そのポスターを町会自治会の掲示板などでも貼っていただけるように準備を進めているところでございます。

また、大学の皆様、もしご協力いただけるということでしたら、ポスターとかを準備させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○長江会長

事務局のほうからは以上でよろしいですか。

○事務局

はい、以上でございます。

○長江会長

委員の皆様方、よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議をこれで終了させていただきたいと思っております。今日は傍聴いただきました高校生の2人、長時間にわたりましたけれども、ありがとうございました。

次回の会議は日程が決まり次第、また正式に通知します。

会議につきまして、多くの意見をいただきましたことに御礼申し上げます。ぜひ裾野を広く、多くの方々に関わっていただけるようなオリンピック・パラリンピックでありたいと思っております。

本日は本当にありがとうございました。